



安政四年丁巳初秋新雕

緒方洪菴譯本

七帙

# 扶氏經驗遺訓



適適齋藏

<91-1908(12)>

扶氏經驗遺訓第七帙目次

卷之二十四

第十四編

婦人病 總論

月經

經血初見

經閉

經血過泄

月經痛

經血收止

扶氏經驗遺訓

卷之二十四

目次

適適齋藏

妊娠

頭痛齒痛

嘔吐

流產

子癇

晚產

蓐熱

母乳處置

乳汁過溢

產後白腫

白帶下

不孕

卷之二十五

第十五編

小兒病 總論

初生兒諸病

卒死

黃疸

濕爛

鵝口瘡

眼焮衝

丹毒

牙關緊急

哮喘

徽毒

下利

嘔吐

搐搦

熱病

生齒

皮疾

格魯烏布

急喘

腦水腫

腦外水腫

疔勞

跛病



扶氏經驗遺訓卷之二十四

足守

緒方章公裁

同譯

義弟郁子文

西肥

大庭志景德 參校

第十四編

婦人病「シトキテン、デル  
フロロウ、ン、蘭

總論

婦人ニ得ル所ノ疾患皆之ヲ婦人病ト稱スルニ  
アラズ唯婦體固有ノ病ヲ斥テ云ルノミ所謂生  
殖機關ニ係レル者月經。妊娠。婉産等ノ  
變常。陰具ノ諸病。即是ナリ

蓋シ婦人ハ此生殖ノ任アルヲ以テ一身固有ノ性質ヲ稟ク故ニ一身ノ諸病亦皆自家ノ性有テ之ヲ療スルノ法モ亦自家ノ則ナキニアラス  
兒ヲ産スルハ婦人ノ任ナリ故ニ妊孕ト娩産ト授乳トハ其本然ノ常態ニメ月經ハ疾病ニ屬セ  
ル者トス是月經ハ其襲替作用ニ出ル者ナレハナリ

婦人ハ一身ノ構成皆生殖ヲ營ムト兩生自己ノ生ト兒ノ子トヲ保ツトニ適スルカ故ニ其生殖機ノ勝レテ隆盛ナルト男子ノ比スヘキ所ニ非ス其陰具

ヲ一目スルモ理已ニ亮然タリ乃婦人ニ於テハ其器深ク潜レテ體軀ニ密著シ男子ニ在テハ外ニ露ハレテ宛モ贅物ノ如シ而婦人ハ受ルラ性トシ男ハ與フルラ性トス故ニ婦體ハ嫩軟ニメ柔順ナリ男體ハ強剛ニメ果敢ナリ  
婦人固有性大抵左ノ如シ

第一纖維弛ハリ故ニ虛衰病弛緩病ノ素質ヲ具ス

第二神經ノ感動過敏ナリ故ニ神經病ノ素因ヲ有シ微聊ノ刺衝ニモ動モスレハ非常ノ抗抵ヲ

起シ非常ノ交感ヲ誘フ

第三乳糜及血液製造迅速ニメ且饒多ナリ兒ヲ養フ

適故ニ多血失血血液鬱積等ノ諸患ニ罹リ易シ

第四補給機成形力隆盛ナリ故ニ異常ノ新物ヲ

形成シ易シ若シ其生殖機懈怠シ或ハ過止スル

一アル片ハ殊ニ然ル一多シ

第五子宮及運化神經ノ全軀ニ感動スル一非常

ナリ故ニ患フル所ノ諸病皆動モスレハ歇以私

的里性ノ證状ヲ無ヌ

第六生カ感動シ易クメ持久セス侵サレ易クメ

奮ヒ難シ故ニ急性諸病皆慢性ニ轉シ易シ

第七其體性總テ小兒ト相類似ス

月經 メンストリアチオロ「マ」ン  
デレイトクセソイヘリ「ン」グ「蘭」

月經ハ生殖機ノ盛ナル徴ニメ婦體方ニ兒ヲ産

スルニ適應セル一ヲ證スヘク亦能ク其健康ヲ

保全スル一ヲ知ルヘキ所以ノ者ナリ故ニ此排

泄ハ婦人ノ為ニ缺ク可ラサル大機關ニメ其愈

順整ナル者ハ其體質益健全ナリトス而又婦人

男子ニ比スルニ重病ニ罹ル一少ナク其之ニ  
堪フル一モ亦久シキ所以肺勞ニ於テ專ラ此排  
泄ニアリトス

經血自ラ漏泄スル所以ハ血液製造過剩ナルカ

為ニ胎兒ノ營時ニ之ヲ排除セサル可ラサルニ

出ツ故ニ是妊孕ニ替リ来テ血液鬱積ノ危害ヲ

防クヘキ一時、襲替分泌病ナルノミ然レモ亦

是クヲノ情欲ノ妄動ヲ制シ脩身ノ正道ヲ守ラ

シムル所以ノ者ナリトス而其排泄必ス子宮ヨ

リスル所以ハ情欲ノ為ニ其部ノ動機亢盛セル

ニ因ル者トス

然リト雖モ月經ハ決メ虚性ノ失血ニ非ス素ヨ

リ實性ノ吉利濟ニモ亦能ク全軀ノ血液ヲ清刷

シ補給力ヲ調和スル所以ノ者ナリ其呼氣異臭

眼光溷濁皮膚發疹等ノ諸證ヲ兼子或ハ神經意

識常調ヲ變シ諸種ノ神經證ヲ現スル一アル等

常ニ子宮一部ノ為ノミナラス全軀ニ渉ルノ大

吉利濟タル一ヲ證スルニ足レリ

其能ク常調ヲ守テ不整ナカラシムハ全軀ノ血

量恰當ナラサル可ラス血質ノ刺衝力恰當ナラ



サレ可ラス子宮ノ動機恰當ナラサル可ラサル  
ナリ一モ此ニ變アレハ則チ月經病ヲ將來ス  
蓋月經病ニ三等ノ大別アリ其初見ニ於ケルノ  
病ト其收止ニ於ケルノ病ト其中間ニ於ケルノ  
病ト是ナリ

月經初見

ユールステオントウツケリン  
グ、クニストンデンフルー、  
正蘭

生殖機醒覺メ始テ一個ノ新生機ヲ發動セルナ  
リ新奇ノ一系生殖關ケ新奇ノ刺衝發シ新奇ノ  
交感起リ新奇ノ外接創マリ生力運營ニモ精神

感動ニモ全ク新奇ノ一態ヲ今賦ス故ニ之ヲ婦  
體生機ノ一變革ナリトス

經血初見我地方ニ於テハ十四歳ヨリ十八歳ニ  
至ルノ際ニアリ然レ氏南邦ニ在テハ差早ク勞  
動操作スル者ハ遅ク逸居怠慢スル者ハ速レ或  
ハ年紀二十歳ヲ踰エ或ハ嫁メ後チ始テ之ヲ見  
ル者アリ而其早キニ過クル者ハ體質弱フメ色  
欲強キノ徴トス蓋シ月經ハ早キニ過キンヨリ寧  
遅キニ過クルヲ優レリトス故ニ其初見ヲ進促  
スルハ總テ宜シカラス少女此期ニ當テ患フル

所ノ諸病ヲ認テ謾ニ月經ノ否滯ナリトシ妄リ  
ニ催經ノ策ヲ處スル徒多シ慎マサル可ラス然  
リト雖氏亦實ニ病的ノ抑閉ナル者少カラス然  
ルカ如キハ速ニ良能ノ機撥ヲ扶ケテ之ヲ催起  
セスンハアラス之ヲ怠ルキハ腦肺胃等ニ血液  
鬱積ヲ起シテ終ニ其部ノ失血等ヲ致シ或ハ歇  
以私的里神經證。瘕瘰證。惡液病。萎黃病。肺勞。虛勞。  
水腫等ヲ惹キ出スノ大害アリ

治法 先病的ノ抑閉ト自然ノ遲滯トヲ鑒別セン  
コトヲ要ス所謂月經徵既ニ現ハレテ經血来ラサ

ル者ハ是病的抑閉ナリ月經徵トハ時々腰痛腹  
痛シ腹肚脹滿シ或ハ乳房膨起メ緊痛スル者是  
ナリ此諸徵闕如セル者ハ醫治ヲ加ヘスメ其自  
ラ来ルヲ俟ツヘシ毫モ其徵ナクメ自ラ通泄ス  
ルト間亦之アリ若シ其徵アレ氏經血来ラス亦他  
ノ病患ナキ者ハ常ニ注意メ其機撥ヲ窺ヒ其徵  
ヲ見ルニ當テ晚ニ脚浴ヲ行ヒ忽弗滿拔爾撒謨  
丸第一百七十一方二三以加密列泡劑ヲ以テ送下セシム  
ヘシ經血一タヒ来テ後再通泄セス或ハ唯粘液  
状ノ稀汁ヲ泄ラス者モ亦斯ノ如ク處置スルヲ

宜シトス

是故ニ其醫治ヲ要スルハ唯月經徴ト他ノ病患ト兼併セル者ニアルノミ然レモ亦仍<sup>ホ</sup>謾ニ經血驅泄ノ劑ヲ投スル<sup>ト</sup>ナクメ先<sup>ツ</sup>其原因ヲ檢査セ<sup>ン</sup>トヲ要ス其原因太約左件ニ屬ス

**第一**多血充實 脈管ノ纖維強固ニメ血液ノ充積セルナリ是殊ニ強健ノ田舎人ニ多ク亦市井ニ於テモ攝養良善ノ徒ニハ屢之ヲ見ル<sup>ト</sup>アリ稟賦強壯體軀雄健ニメ脈實セル者はナリ其患<sup>ハ</sup>炊衝ニ近邇セリ宜ク血液ヲ減耗稀釋シ纖維ヲ

緩和<sup>シ</sup>弛スルノ策ヲ田ラスヘシ乃<sup>チ</sup>月經徴ノ現

スルニ當テ足部ニ刺絡ヲ施シ脚浴蒸氣浴ヲ行

ヒ沸騰散<sup>方第二</sup>ヲ服セシメ植物品ヲ食料トシ或

ハ孕蓬酒石蘆根煎<sup>或ハ越幾斯</sup>苗根末<sup>每服半錢ヲ與日ニ三次</sup>ヲ與

ヘ微温浴ヲ命スル等ヲ宜シトス然クメ仍<sup>ホ</sup>効ナ

キ者ハ其期<sup>月經徴ノ</sup>見ル<sup>ル</sup>時ニ臨テ陰部ニ蜚鐵ヲ貼シ

内股ニ角法ヲ行フヘシ

**第二**血力不及 顔色黧蒼體質虛弱ニメ冷土易

ク逸居怠慢ニメ脈弱ク萎黃病ノ素質ヲ抱ケル

者はナリ是血液ニ刺衝力乏シクメ<sup>殊ニ子宮ノ</sup>血脈

脈ノ動機奮ハサルナリ宜ク鐵劑ニ苦味藥ヲ伍  
シ用フヘシ炭酸死スヲ含メル者鐵氣ヲ含メル鑛泉殊ニ  
佳ナリ或ハ礪砂華亞兒尼加第百二十七方撒爾末兒扶  
斯等ヲ與ヘ就中紅頰丸第百二十八方黥簪ノ顔  
ヲ以テ此ヲ用フルヲ宜シトス兼テ滋養ノ功ア  
ル動物品ヲ食料トシ身軀ヲ勞役シ精神ヲ鼓舞  
シ逍遙散步騎馬ヲ事トシ月經徵ノ起ルニ臨テ  
拔爾撒謨丸按ニ第百七十一方ヲ用ヒン<sub>1</sub>ヲ要ス此證ハ  
手淫或ハ色欲ノ萌動之カ因トナル<sub>1</sub>アリ亦注  
意セスンハアラス

第三 感動過敏

痙攣ノ為ニ經血抑閉セラレ、  
者是ナリ宜ク續草阿魏葛私多倭謨等ノ鎮痙藥  
ヲ與ヘ温浴及陰部ノ蒸氣浴ヲ行フヘシ或ハ此  
證多血充實ヲ兼ルアリ然ル者ハ右ノ諸法ニ兼  
テ局處若ハ總身ノ瀉血ヲ施サン<sub>1</sub>ヲ要ス

第四 有形病因

體內ニ有形ノ病因有テ子宮ノ  
機動妨碍ヲ被ムル<sub>1</sub>アリ喻ヘハ蟲病癩癧腹腺  
閉塞印華爾屈篤性ニ粘液者疥瘡黥毒等ノ如キ是  
ナリ宜ク其因ニ随テ各之ヲ驅除シ以テ之ヲ開  
達スルノ治法ヲ行フヘシ之ヲ行テ驗ナキ者ハ

間、膈口閉著之カ因トナルトアリ仔細ニ検査セ  
 スンハアラス其人毫モ他患ヲ夾ムトナクメ四  
 週毎ニ月經徵劇發シ小腹膨脹メ其底ニ充張壓  
 迫ヲ覺エ月經已ニ崩セルノ諸徵悉ク具ハレル  
 者ハ乃、此證タルト疑ヲ容レス宜ク外科術ヲ行  
 テ處女膜ヲ截開スヘシ  
 若シ右ノ諸因ナク或ハ之アリシモ既ニ去テ仍  
 經血來ラサル者ハ乃、經閉條ニ照シテ真ノ催經  
 治法ヲ行フヘシ  
 月經初メテ見ハル、ニ臨テハ勉メテ妨害ナカ

ラシメントヲ要ス婦人生涯ノ為ニ缺ク可ラサ  
 ルノ要件ナリ初回之ヲ順路ニ導テ恰當ノ定期  
 ヲ守ラシムル片ハ後復懈怠セシメント欲スル  
 氏之ヲ拒ク可ラス實ニ是婦體ヲ守衛メ其健康  
 ヲ保全セシムルノ大吉利濟ナリ忽諸スルト勿  
 レ故ニ月經通泄ノ間ハ宜ク左ノ攝生ヲ守ラシ  
 ムヘシ是帝ニ初見ノ時ノミナラス生涯月經ニ  
 臨ム毎ニ意ヲ茲ニ注カシメントヲ要ス其法起  
 熱ノ諸件殊ニ舞踏ノ類ヲ禁シ情意ノ感動ヲ避ケ冒寒  
 セス過食セス殊ニ難化ノ粉麪新製蒸餅等ヲ宜シカラストス



法ヲ施シ脚浴蒸氣浴緩和ノ灌腸法ヲ處スヘシ  
經血ヲ導決シ危險ヲ防クニ足ル然クモ而驗ナ  
キ者ハ蓬砂或ハ沸騰散ヲ與フルニ宜シ若焮衝  
證既ニ退キ或ハ初ヨリ焮衝ノ候ナクメ痙攣ノ  
徵アル者ハ脚浴蒸氣浴琶布灌腸法ヲ施シ沸騰  
散ニ菲阿斯越幾斯ト雜腹蘭ヲ加ヘ或ハ「タキシ  
ス越幾斯」附 每服ヲ配シ與ヘ或ハ葛私多樓謨加  
密列泡劑ヲ用フルヲ佳トス而仍鎮痙ノ力足ラ  
サル一ヲ察セハ内服藥ニモ灌腸藥ニモ阿芙蓉  
液二三滴ヲ加フヘシ

墮閉證ハ大ニ其處置ヲ異ニス專ラ原因ヲ查點  
セスンハアラス宜ク先<sup>ツ</sup>妊娠ニ注目スヘシ其婦  
自ラ然ル一ヲ信セサル者多ク殊ニ配匹ナキ婦  
ニ在テハ故ニ之ヲ隱匿スレハナリ醫者誤テ妄  
リニ催經藥ヲ投シ随テ墮胎スル一アレハ其職  
ノ本旨ヲ失メ汚名ヲ被ムルノミナラス亦自ラ  
其罪ヲ悔ユルノ責アリ慎マサル可ラス斯ノ如  
キ證ニ在テハ其決断早カラサルヲ良トス初月  
ニ於テハ之ヲ檢査シ盡クス其確徵ヲ獲ル者ニ  
非ス其配匹アルト否サルトニ拘ラス俄頃ノ抑

扶氏遺言 卷之二十四 土 箇箇奇載

閉ニ非<sup>レ</sup>ハ初月直チニ催經ノ策ヲ處ス可ラス  
若血液鬱積等ノ急證アラハ刺絡ヲ行ヒ清涼藥  
ヲ用フル等唯傍證ノ治法ヲ施シテ其時ヲ俟ツ  
ヘシ治ヲ下スヘキノ餘證絶<sup>ユ</sup>テ之ナキニ患者若  
強テ通經ノ藥ヲ乞フ<sup>コ</sup>アラハ唯蒸餅丸子ノ類  
ノ如キ無害無功ノ品ヲ與フルヲ宜シト不然セ  
サレハ謾ニ他ノ無稽輩ニ就テ危害ヲ招クノ恐  
レアレハナリスノ如ク持續メ三四月ヲ經ハ其  
實ニ妊セル者ハ諸徵漸ク現ハレテ胎動起リ以  
テ疑ヲ容ル<sup>コ</sup>ナキニ至ルヘシ是ニ於テ醫亦其

名ヲ汚ス<sup>コ</sup>ナク自ラ其罪ヲ悔ユルノ責ナキ<sup>コ</sup>  
ヲ得ヘシ  
若夫妊ニアラスメ病的ノ壅閉タル<sup>コ</sup>明カナル  
者ハ必ス治術ヲ加ヘスンハアラス之ヲ怠<sup>レ</sup>ハ  
繼テ歇<sup>ハ</sup>以<sup>イ</sup>私<sup>ス</sup>的<sup>テ</sup>里<sup>リ</sup>癩<sup>リ</sup>癩<sup>リ</sup>吐血<sup>ハ</sup>咯<sup>ク</sup>血<sup>ハ</sup>勞<sup>ロ</sup>瘵<sup>ハ</sup>水<sup>スイ</sup>腫<sup>シュ</sup>等<sup>ト</sup>ノ諸  
患ヲ將來ス治法先<sup>ニ</sup>原因ヲ探索メ除去セ<sup>ン</sup>コ  
要ス唯此一舉ニメ能ク開達スル<sup>コ</sup>屢<sup>レ</sup>之<sup>ヲ</sup>アリ其  
衰弱血虛ニ因セル者ハ<sup>ハ</sup>苦<sup>ク</sup>心<sup>シ</sup>過<sup>ク</sup>慮<sup>ス</sup>勞<sup>ロ</sup>役<sup>ハ</sup>飢<sup>キ</sup>渴<sup>ス</sup>重<sup>ク</sup>病<sup>ニ</sup>  
ル<sup>ル</sup>素<sup>ト</sup>ヨリ<sup>テ</sup>經<sup>ノ</sup>血<sup>ノ</sup>資<sup>ナ</sup>キ<sup>カ</sup>故<sup>ニ</sup>決<sup>メ</sup>其<sup>ノ</sup>血<sup>ヲ</sup>驅<sup>ル</sup>  
泄ス可ラス此證ニハ強壯滋養ノ治法即チ催經

夫大貴川 卷之二十四 十一 道通齋



ノ治法トナルナリ其内臓及子宮ノ壅塞ニ因セ  
ル者ハ坐メ業ヲ操ル者ニ多シ專ラ解凝開達ノ治法ヲ處シ  
其痙攣ニ因セル者ハ鎮痙藥ヲ與ヘ其蟲病惡液  
病病毒轉徙ニ因セル者ハ各自相當ノ治法ヲ行  
フヘシ就中潛伏微毒ヨリ來ル者少ナカラス每  
ニ著目センコトヲ要ス

右ノ諸法皆功ナク或ハ素ヨリ攻ムヘキノ原因  
之ナキ片ハ直チニ催經ノ治法ヲ行ハスンハア  
ラス催經法ニ般アリ内ヨリ驅逐メ血ヲ子宮ニ  
進輸セシムルト外ヨリ呼導シテ血ヲ此ニ輻湊

セシムルト是ナリ而メ乙法ハ其功確實無危ナ

リ且夫貴要器ノ血液鬱積ヲ恐ルヘキ證ニハ殊

ニ撰用スヘシトス甲法ニ屬スルノ品ハ即チ盧

會沒藥蓬砂硫黃鍊水銀鑛泉炭酸瓦斯薩毘那

アリ第百二十九方百三十三方雜腹蘭拔爾撒謨丸朴

屈福烏篤黑列僕利瓦爾拔奴謨格魯董篤ヒリゴ

丁幾「ヒリゴ」製法未詳等是ナリ乙法ニ屬スル者ハ

脚浴灌腸角法内股ニ施ス股脚摩擦陰部蟻鍼陰部蒸

氣浴内股打膿法久ク之ヲ行フ鼠蹊毫鍼法奇効越列幾

的兒閃發法ハ陰部及子宮部ニ行ヒ衝激法ハ五

夫大貴肌 卷之二十四 十三 適適齋

メテ行フヲ等ノ如キ是ナリ

月經徵經血初見アル者ハ其期ヲ候フテ右ノ諸

法ヲ施スヘシ殊ニ能ク其功ヲ奏ス

經血過泄ルマンストリニアニミア羅「オ」フ

蘭ド

經血ノ過度ハ其分量ヲ以テ言ヒ難シ平素多キ者アリ寡キ者アリ故ニ唯其繼發ノ證ニ就テ之ヲ徵スヘキノミ乃チ脈細弱トナリ或ハ結代シ全驅疲勞メ四肢冷却シ呼吸カラナクメ微動ニモ心

悸動シ食欲乏シクメ動モスレハ悲哀シ或ハ晚

ニ足脚浮腫スル等ヲ之カ徵トス其日數長キニ

過キハ日其回數多キニ過クルモ亦是過泄ナリ

而其衰弱ヲ起ス下甚シク昏暈ヲ發スルニ至ル

者ハ稱メ之ヲ子宮脫血即崩漏ト謂フ此證ハ定期

ノ外ニモ來ルナリ若夫連綿漏泄メ定期ナキ

者ハ之ヲ慢性子宮脫血ト謂フ

凡經血過泄スレハ繼テ全軀衰弱シ神經疲勞シ

其運營衰ヘテ歇以私的里瘰癧病惡液病水腫等

ヲ起スヲ常トス故ニ婦人ニ於テ此類ノ諸病ニ

夫ノ貴州...

遇ハ、毎ニ其因ヲ此ニ索メントテ要ス

原由 全軀纖維ノ薄弱弛緩總身及子宮ノ感動過

敏。坐ノ事ヲ操ルノ生業。カフルニ平生食者過房。手經。

欲火熾盛。婉産過數。腹内刺衝。殊ニ胆液刺衝。子宮局處ノ

衰弱。病毒轉徙。剝列編失。苟兒陪苦。性血液溶崩等

其常因ナリ

治法 根治ト姑息トアリ

根治法ハ專ラ原因ヲ探テ之ヲ療スルナリ就裡

子宮ノ衰弱弛緩ヨリ來ルヲ多シトス全驅ノ性

質。婉産過數。坐ノ事ヲ操ルノ生業等ヲ稽徴メ之

ヲ察スヘシ苦味藥。收瀋藥。香竈藥ヲ佳トス殊ニ

幾那。第百三十三方楊皮。橙皮。桂。四錢沸湯二碗ニ浸出ノ一日ニ用

ルフ數試驗ヲ經タ硫酸。明礬。礬乳清トシ用テ殊功アリ第百三十五方

百藥煎。吉納護謨等ヲ用ヒ衰弱大ナル者ハ撒爾

末兒扶斯等ノ含酸鐵劑。第百三十六方ヲ與ヘ兼テ衰弱

ヲ起スノ因ヲ遠ケ冷物ヲ喫スルヲ禁スヘシ

其他感動過敏ニ因セル者ハ少量吐根等ノ鎮痙

藥ヲ服セシメ甚シキ者ハ之ニ阿芙蓉ヲ配シ多

血ニ因セル者ハ甚タ稀ナリ多クハ子宮刺絡。清

涼下劑。酒石酸。鑛酸等ヲ與ヘ失苟兒陪苦ニ因セ

ル者ハ失苟兒陪苦ノ治法ヲ施スヘシ尚且膽液  
鬱滯内臟壅塞蟲病徽毒惡液病等ノ病毒刺衝ニ  
注意メ各其治法ヲ處セスンハアラス余嘗テ伊  
屈篤ニ因セル者ニ朴屈福烏篤ヲ用ヒテ奇功ヲ  
得シ一アリ若其諸法皆驗ナキ者ハ子宮内ノ剥  
列編鼻痔ノ如キ贅肉皆ニ由ル一アリ亦能ク查  
之ヲ剝列編ト云フ點メ除祛セシ一ヲ要ス

姑息法ハ脫益甚シクメ危險ナル者ニ行フヘシ  
有カノ收瀋藥ヲ用ヒスンハアラス明礬殊効アリ  
散トメ十以宛與ヘ或ハ礬乳清ニ製メ毎服半碗ヲ用フ其他撒爾末兒扶

斯第百三十七方桂丁幾每服三十滴ヲ服セシメ冷濕法ヲ陰

部子宮部ニ行ヒ冷水ヲ注入シ或ハ冷水ニ葡萄

酒明礬ヲ加テ之ヲ注射シ或ハ之ヲ蘸透セル答

木封箕作氏ノ名醫彙講ヲ併考スヘシヲ施シ平卧静息セシメ股

ヲ緊縛スル等ヲ宜シトス按ニ股ヲ緊縛スルハ  
兩股ヲ合メ縛スルナ

ンラ

月經痛「メ」  
ン「レ」  
イ「ク」  
スト「ン」  
デ「ン」  
フル「ー」  
下「」  
蘭「

徵候 月經來ル毎ニ劇シキ疝痛ヲ起シ其疼或ハ

臨産ノ陣痛ニ擬シ頭痛齒痛嘔吐ヲ兼子甚シキ

者ハ吐瀉昏冒。搐搦癲癩。譫語鬱悶。狂躁等ヲ發ス。此諸證唯經中ニノミ起ルアリ。經前數日先驅スルアリ。經後數日留連スルアリ。而其婦大抵生涯ノ半ヲ病患ニ消シ毎月患若八日ヨリ十四日ニ至ル且多ハ妊娠スルヲ得ス。

原由 子宮或ハ總身ノ神經覺機亢盛メ銳敏トナリ。經血ヲ起スヘキノ子宮機動轉メ痙攣ヲ生シ以テ諸部ニ交感セルナリ。遠因ハ手姪過房過度ニ其情厭サル者殊ニ其因トナルニ由テ起ル所ノ子宮局處ノ衰弱及刺衝或ハ歇以私的里内臟壅塞。子宮印華爾

屈篤蟲病。潛伏病毒等ニアリ。就中變形微毒ヲ多シトス。而多血及纖維強硬ニ因セル者ハ罕ナリトス。

治法 甚タ難治ノ病ナリ。先遠因ヲ探索メ之ヲ除治スヘシ。而仍依然タル者ハ局處及總身ニ涉ル痙攣ノ素質ヲ祛キ衰弱ヲ復スルノ諸法ヲ施サレドヲ要ス。乃阿魏。羯布羅。括失亞。收斂亞的兒等ヲ久シク連用シ始。微温浴ヲ行テ後。徐ク冷水浴ニ移リ殊ニ鏡泉ニ浴スルヲ宜シトス。然レモ亦内臟壅塞及子宮脈管ノ壅塞ヨリ來ル者少ナ

カラス此ニ注目スルヲ急ルヲ勿レ余前件ノ  
 諸藥ヲ用ヒテ驗ナキ者ニ「カル、スバット」鐵泉人  
 亦用フヲ服セシメテ屢十全ノ功ヲ收メタリ諸  
 藥諸法皆効ヲ奏セサル者ハ麻<sup>ハ</sup>偃<sup>グ</sup>涅<sup>チ</sup>扶<sup>ス</sup>私<sup>ミ</sup>謬<sup>ス</sup>斯<sup>ス</sup>  
カヲ用フモ亦試用スヘシ其良驗アルヲ諸月經  
ル療法ニ關セル他ノ神經病ニ於ケルカ如キ一聞之  
 リ  
 姑息法ハ唯降和鎮痙ノ治法ヲ行フニアリ阿芙  
 蓉ヲ主藥トス油製乳劑ニ和シ與ヘテ最モ功ア  
 リ兼テ陰部子宮部ニ麻酔藥ノ蒸漏法ヲ施シ鎮

痙軟膏ヲ擦シ緩和灌腸法微温半身浴ヲ行フ等  
 ニ宜シ但多血家腸胃汚物家ハ菲阿斯越幾斯ヲ  
 以テ阿芙蓉ニ代フヘシ

經血收止

「セサチオメンシウハ羅「オプホ  
 ウデンドラン、ストンデンノル」

蘭

月經ノ收止スル一我地方ニ在テハ四十五歳ヨ  
 リ五十歳ニ至ルノ際ニアリ然レハ體質住地生  
 業等ノ異ニ隨テ同シカラサル一猶其初見ニ於  
 ケルカ如シ經血風ニ見ハレシ者平素勞役セル

者活計ニ苦シメル者稟賦寒性ナル者ハ其收止  
スルモ亦早ク之ニ反セル者ハ之ニ反ス其收止  
ニ頓ト徐トアリ其頓ニ止テ復ヒ来ラサルハ每  
ニ宜シカラス漸ク徐ク減シ一次止テ一次来リ  
二次止ミ三次止ミ次第斯ノ如クニメ終ニ全ク  
收マル者ハ極テ佳候ニメ遺害アルナシ大抵  
其終末饒多ノ血ヲ漏泄メ了ルヲ常トス然レモ  
亦一止一發久シク持續メ六十餘歳ニ至ル者モ  
間之アリ月經收止ノ利害ヲ預メ徴スヘキニ確  
證アリ其時ニ當テ少發熱發汗シ或ハ皮疹ヲ發



スル者ハ是體液層表ニ進ムノ徴ナリ吉徴ニメ繼發病患ノ恐  
レナシ若シ此時ニ惡寒シ且皮膚微冷ヲ覺ユル  
者ハ宜シカラス必ス内部ニ血液鬱積及ヒ他ノ諸  
患ヲ起スヘキノ徴ナリ

此期ハ實ニ性命ニ係ルノ切要時ナリ婦人此時  
ニ斃ル者甚タ多シ故ニ之ヲ婦族生死兩斷ノ  
期ト稱ス亦當レルナリ

其利害得失每人大ニ相霄壤ス其利アル者ニ於  
テハ經事了テ始テ體質强健トナリ血液充盈シ  
テ宛モ壯歳ニ復セルカ如キナリ其害アル者

ニ於テハ、シト繼テ、腦肺胃等ニ血液鬱積、ヲ吐血多失血ヲ吐血多ス。或ハ、シト汚乙粘液ノ脫泄ヲ起シ、或ハ、シト歇以私的里痙攣、胃痛等ノ神經病ヲ發シ、或ハ、シト既往ノ皮膚病、惡液病、伊偃篤、瘰癧等更ニ再發シ、或ハ、子宮ノ硬結腫、癌腫、ホレイ剥列、ペン編等異常ノ器質病ヲ生シ、或ハ、從前經久ノ硬腫更ニ新生氣ヲ得テ發痛、シ衝シ増大スル等諸種ノ患苦ヲ來タス。アリ

治法 先、ッ内部變革ノ情態ヲ識得セン。アリテ要ス之ヲ識得スレハ、治術ノ標的自ラ、ッ亮然タル。アリテ得ヘシ。此ニ三件アリ、血液製造仍、ホ持續メ、ホ饒多ナル

ニ排除ノ道塞カレルカ故ニ、多血トナル。一ナリ。一成形力仍、ホ隆盛セルニ、子宮ノ官能廢スルカ故ニ、諸部器質ノ變常ヲ生シ、易キニナリ。月經ハ、血ヲ漏泄スルノミナラス、他ノ病毒ヲ排除スルノ吉、利濟ナルニ、今其機關歇、ルカ故ニ、體液酷厲ト為テ、惡液病ヲ釀シ、易キニナリ。是故ニ、治法ノ本旨トスル所ハ、ホ鬱血ヲ誘導シ、對稱ヲ衡平シ、以テ、ホ經血漏泄ノ闕ヲ補フニアリト。ス。月經止、テ、ホ身體輕健ヲ覺エ、前日ニ比スルニ、強壯トナル者ハ、是、ホ元來血液不足シ、或ハ、ホ月經過



多ナリシ者ナリ固ヨリ治療ヲ加フルヲ要セ  
 ス唯適宜ノ運動ヲ為シメ恰當ノ食規ヲ守ラシ  
 ムヘキノミ若シ血液鬱積及ヒ他ノ諸患ヲ現ス  
 ル者ハ刺絡スヘシ其多血ノ度ヲ商量ノ半歳若  
 ハ一歳毎ニ之ヲ行ヒ其間時々角法ヲ施シ誘導  
 アルヲ以テ殊ニ宜シトス兼テ純精酒石ヲ多服セシムヘシ  
 酒石ハ特ニ血液ノ瘀衝ヲ制スルノ異功  
 アリ一盞ノ砂糖水ニ一茶匙ヲ溶シ用ス且二三  
 週毎ニ三四日間芒硝溶水或ハ「ルビツテルワート」ル鏡ヲ用フルヲ佳トス而多血  
 甚キ者血液鬱積強キ者病毒轉徙恐ルヘキ者等

ハ膊若ハ脚ニ打膿法ヲ行ヒ神經性ノ者ハ收斂  
 亞的兒ヲ與ヘテ勞動ヲ多クシ食餌ヲ節シ防瘀  
 ノ能アル諸品ヲ喫セシムヘシ瀉血ハ血液鬱積  
 ノ候存スル間ハ必ス怠ル可ラス但漸ク之ヲ遠  
 サケテ之ヲ行フノ數ヲ少ナクスヘシ或ハ數年  
 刺絡ヲ連施メ始テ血管ノ運營平均ヲ得ル者ア  
 リ蓋刺絡ハ大抵初歳三回次歳二回第三歳一回  
 ト其數ヲ減スルヲ規トス

妊娠「スワンケル」  
「カッポ蘭」

妊娠。娩産。授乳ノ三事ハ婦人自然ノ常態ニ屬セ  
シ者ニシテ其體健全ナルノ候ナリ古賢ノ言ニ婦  
女ハ兒子ヲ産メ福祉ニ就クト云ヘリ故ニ強健  
無比ノ婦ニ於テハ此三事連々序ヲ逐テ互ニ相  
次クテ常トス然ルニ月經ハ唯妊娠ノ襲替運營  
ニメ缺ク可ラサルノ要機ナルノミナラス之  
アルヲ以テ人能ク正道ヲ蹈キ妄行ヲ致サ、ル  
ヲ得ルノ妙用アリト雖氏畢竟常規ニ違ヘル病  
的ノ一態タルヲ免レズ是故ニ稟賦體質順正  
ニメ攝養動作法ニ戾ラサル者ハ妊娠中毫モ病

的ノ證狀ヲ見ハス

凡、妊娠中患フル所ノ通證ハ惡心。嘔吐。頭痛。齒痛。  
或ハ皮疹。發斑等ナリ其他意識。氣質全ク常調ヲ  
變シ歇以私的里。謔語。狂亂。鬱憂等ノ諸種ノ神經  
證ヲ發スルヲアリ其諸患今娩スレハ則、獨リ自  
ラ治マルヲ常トス而其最モ危篤ニメ恐ルヘキ  
ハ流産ノ一證ナリ

妊娠ハ早ク鑒定セサル可ラス若シ之ヲ認テ他病  
トシ誤テ他病ノ治法ヲ處スレハ流産ヲ促カシ  
胎兒ヲ害スルノ過失ナキヲ得ス然レ氏其初

ニ於テハ之ヲ徴知スルヲ易カラス其通徴ハ月  
經閉止ト乳房腫脹トニ多クハ惡心嘔吐ヲ發シ  
亦且各人自家ノ感觸及ヒ自家ノ發證アリ然レ  
氏亦此諸徴悉ク闕ケテ月經モ依然タル者稀ニ  
之アリ夫聽管ヲ以テ胎兒ノ脈動ヲ聽取スルカ  
如キハ唯第五月以後ニ於テスヘキノミ妊初ニ  
在テハ益アル者ニ非ス而亦月經閉止シ乳房腫  
脹スレ氏唯是血液向方ノ常ヲ變セシノミニノ  
妊ニ非ル者アリ其婦ノ妊ヲ隱匿スル者ニ於テ  
ハ殊ニ之ヲ徴スルヲ難シ總テ斯ノ如ク疑似決

シ難キニ遇テハ寧口妊ナリトメ之カ處置ヲ為  
シ以テ胎動現ハルヲ俟ツニ若クハナシ斯ク  
スル氏ハ醫能ク内ニ過誤ヲ悔ユルノ責ナク外  
ニ名聲ヲ汚スノ恐レナキヲ得ヘシ殊ニ年少  
ノ醫ハ之ヲ平常ノ規トセシヲ要ス  
妊娠ハ疾病ニ非スメ自然ノ常態タルヲ前ニ言  
ヘルカ如シト雖氏亦能ク種々ノ病證ヲ誘發ス  
ルヲ多シ覺機過敏ト各部衰弱ト逸居怠慢トハ  
殊ニ之ヲ媒起ス故ニ高貴ノ人嫩脆ノ婦ハ卑賤  
ノ徒ニ比スルニ病患ヲ發シ易シ

妊娠ノ本然タル活體中ニ活體ヲ稟舎メ生機重  
複シ補給機旺盛シ血液製造倍增ス故ニ其起ス  
所ノ疾患多シト雖凡皆左ノ四原ニ歸スル者ト  
ス其一多血初起ニ在テハ胎兒未其閉止セル經  
血ヲ費シ盡ス<sub>レ</sub>ト能ハス<sub>レ</sub>メ其血自ラ過剩ス故ニ  
其初三四個月ハ之ニ原ツクノ疾患ヲ將來スル  
ト多シ平素血虛ノ徒妊中却テ健康ヲ覺ユルハ  
即チ之カ為ナリ其二痙攣子宮ニ異常ノ刺衝<sub>兒胎</sub>  
ヲ生メ異常ノ活動ヲ起シ以テ異常ノ交感ヲ致  
スヨリ來ル其機恰モ腸蟲刺衝ノ作用ニ異ナラ

ス其三汚物胃腸肝臟等腹内諸器ノ分泌排泄常  
機ヲ違ヘテ其汚物自ラ胃腸内ニ鬱滯ス其四形  
器性壓迫子宮脹大メ血脈水脈ヲ壓迫スルカ故  
ニ第五月以後ハ痔疾大小便閉足脚浮腫陰唇腫  
脹下肢脹腫等ヲ起ス<sub>レ</sub>ト多シ

治法 左ノ七件ヲ以テ通則トス 第一諸患ノ發ス  
ル毎ニ良久シク平卧セシムヘシ通メ偉功アリ  
第二衣帶等諸緊縛ヲ避クヘシ 第三開豁氣中ニ  
適宜ノ運動ヲ致スヘシ總テ操業ノ婦ハ閑逸ノ  
婦ニ比スルニ今婉平易ナリ 第四諸情意ノ感動

ヲ避クヘシ胎兒ノ為ニモ亦大利アリ其他行状  
 ヲ正クシ神志ヲ安ンシ潔白清楚ヲ守ル等皆益  
 アリトス**第五**劇動努カラ避クヘシ舉重負擔ハ  
 殊ニ宜シカラス**第六**藥ヲ用フルニ注思メ胎兒  
 ヲ害シ流産ヲ起スヘキ諸品ヲ禁スヘシ就中峻  
 下藥殊ニ盧會  
ヲ禁ス炭酸ヲ含ミ鑛氣ヲ孕メル鑛泉冷  
浴  
 温浴共ニ害アリヲ宜シカラストス第五月以前ハ殊ニ  
 之ヲ忌ムヘシ**第七**適宜ノ通利ヲ保タシムヘシ  
 季期ニ於テハ殊ニ然リトス四週毎ニ清涼下劑  
 ヲ服スルニ宜シ

各證治法ハ專ラ各自ノ原因ニ準ハサル可ラス  
 即チ其多血ニ因セル者ハ脈實ニメ體質肥滿シ  
 平素經血多量ナリシ等ヲ以テ之ヲ徵ス刺絡ヲ  
 尺澤ニ行ヒ防焮ノ攝生ヲ命シ清涼ノ諸藥第百  
三十  
 ハヲ與フルニ宜シ頭痛齒痛痙攣及ヒ自餘ノ神  
 經證モ多血ヨリ来レル者ハ皆之ニ由テ治スル  
 トヲ得ヘシ總テ妊婦ノ刺絡ハ平卧セシメテ足  
 脚ヲ高フシ施スタ佳トス其血液ノ心臓ニ還流  
 シ易キヲ以テ能ク暈倒ヲ防禦ス之ヲ喫緊ノ要  
 件ナリトス血行躊躇スレハ胎兒ノ危殆ヲ招ク

者ナレハナリ其神經性ニ因セル者ハ體質穎敏  
小便灰白ニメ多血ノ候ナキ等ヲ以テ之ヲ證ス  
鎮痙藥ヲ用フルニ宜シ然レ氏阿芙蓉ノ如キ辛  
熱品ハ禁スヘシ唯急迫止ムヲ得サル者ニ用  
フヘキノ<sup>ミ</sup>其腸胃汚物ニ因セル者ハ疎滌劑ニ  
宜シ然レ氏峻下藥殊ニ盧會ハ流産ヲ起スノ恐レア  
ルヲ以テ之ヲ禁ス宜ク清涼性ノ中和塩。答末林  
度ヲ用フヘシ或ハ梅那ヲ伍メ其功ヲ扶クルモ  
亦可ナリ其形器性壓迫ニ因セル者ハ亦形器性  
ノ法ヲ以テ之ヲ療スヘシ形器性ノ法ハ平卧ヲ

以テ最トス季期ニ發セル形器性諸患ヲ支フル  
ノ一良術ナリ其他便秘スル者ハ下劑ヲ與ヘ灌  
腸ヲ施シ痔疾脈腫ニハ瀉血ヲ行フ等ニ由テ其  
患害ヲ寬解セスンハアラス第五月以後ニ於ケ  
ル大便閉小便閉ハ子宮ノ位置形狀錯戾セルニ  
原ツク者間之アリ仔細ニ検査メ産科家ノ技術  
ヲ假ラントテ要ス

頭痛。齒痛。ドブドブイニ蘭

頭痛。齒痛共ニ姪初ノ常患ナリ就中齒痛ヲ多シ

トス其原由大抵皆血液鬱積ニ在リ刺絡ヲ尺澤  
ニ行ヒ第百三十八方ノ散劑ヲ用ヒ清涼下劑ヲ  
與ヘ芥子硬膏未ヲ上臍ニ貼メ偉効アリ疼痛劇  
烈ナル者神經性ニ因セル者ハ每一時菲阿斯越  
幾斯半ハ或ハ一ハ右ノ散劑ニ配シ用フヘシ  
外用ニハ冷水ヲ以テ含嗽シ齒齦ニ蟻鍼ヲ貼ス  
ルヲ宜シトス第百三十九方モ亦良驗アリ

嘔吐ケラ ケラ ケラ

嘔吐ハ孕婦常病ノ一ニメ煩困ヲ極ムル者ナリ

殊ニ初月ヨリ第五月ニ至リ或ハ妊中終始之ヲ  
苦ミ其發スル一ト大抵早晨午時ヲ以テスレハ或  
ハ晝夜寧時ナキ者アリ是孕後早ク發スル所ノ  
者ニメ妊ヲ徵スルノ第一證ナリトス其過劇ナ  
ラサル者ハ害ナシト雖氏已甚ニメ留連スル者  
ハ患者ヲ疲ラシ榮養ヲ碍ルノミナラス亦貌ツレ儂  
屈ク流產ヲ誘起スルノ恐レアリ

蓋シ此病ハ十全ノ治ヲ得可ラス妊孕其原由ト  
ナレハナリ即是子宮内新ニ異體ヲ生メ其部ニ  
一生機ノ活起スルヨリ胃ニ交感ノ刺衝ヲ致ス

ニ由リ經血閉止メ體液過剩トナレルニ胎兒猶  
未之ヲ費耗スルヲ能ハスメ胃ニ局處ノ多血ヲ  
起スニ由リ且腹部新奇ノ感動ニ遇テ胃及ヒ肝  
ノ分泌變常スルニ由ルナリ

治法 唯嘔吐ヲ制止メ其劇勢ヲ挫キ其留連ヲ短  
フスルニアルノニ其人若シ少壯多血ニメ脈實  
シ且平素經血多カリシ者ハ尺澤ヲ刺シテ其血  
ヲ瀉スヘシ一舉ニメ全功ヲ收メシト少ナカラ  
ス假令然ルトヲ得サルモ能ク危險ノ後患ヲ禦  
クニ足ル若腸胃汚物ノ徵有テ大便澁閉スル者

ハ緩柔ノ清涼下劑ヲ投スヘシ而驗ナキ者及神

經虛弱ニメ覺機敏捷ナル者ハ鎮痙藥ヲ用フル

ニ宜シ就中催嘔ノ刺衝物ヲ制伏スヘキ品ヲ撰

ムヘシ里歇利飲加菲阿斯第四百四十方是ナリ沸騰散ハ炭酸瓦斯ヲ發

起メ子宮ヲ激衝スルノ害アリ吉利私太爾水第三

越栗失爾赫篤里沃利加龍涎香丁幾第四百一十方等ハ

偉効アルノ鎮痙藥ナリ其他末篤栗加利精附忍

氏拔爾撒謨非答附阿芙蓉丁幾ヲ胃部ニ擦シ健

胃硬膏附ニ加耶普的油阿芙蓉ヲ加ヘテ外貼シ

薄苛葉ヲ葡萄酒ニ煮テ温蒸シ緩和灌腸法ヲ施



ス等ヲ宜シトス。緩和灌腸法ハ殊ニ第五月後便  
秘ノ嘔吐スル者ニ益アリ。此時ニ於テハ子宮ノ  
壓迫ニ由テ結腸ニ硬屎堆積スルヲ甚シク下劑  
ヲ服スル氏之ヲ泄スヲ能ハサルヲアリ宜クニ  
三日ノ間日ニ三四次連用スヘシ。嘔吐極メテ頑  
固ナル者ハ地兒列乙幾麻偃涅扶斯法磁石カラ  
用フルノ  
方モ亦奇功ヲ奏スルヲ屢之アリ

流産アボルキスニ羅ブル  
トグゲボールテ蘭

徵候 流産ハ第三月ニ當テ來ルヲ最多シトス其

前徵ハ腰部少腹疼痛ノ乳房萎縮シ全軀戰慄メ  
背脊ニ惡寒ヲ覺エ腹肚壓重メ小便努責シ腔ヨ  
リ粘液ヲ漏泄シ其通キニ迫ル者ハ子宮ヨリ漏  
血シ第五月後ニ在テハ之ニ加フルニ胎動ノ過  
止ヲ以テス

原由 驚怖。忿怒。墜下。撞衝。寒氣ノ冒觸。起熱ノ諸件。  
勞動過甚。房事過度。及ヒ諸熱病等能ク之ヲ誘起  
ス

治法 流産スレハ當ニ兒子ヲ亡フノミナラス子  
宮ノ脫血局處ヲ撞衝局處ノ衰弱ヲ起シ亦能ク

流産ノ素質ヲ遺シテ後來妊スル毎ニ同時期ニ  
流産スルノ常習ヲ得ルナリ故ニ勉メテ之ヲ預  
防セシムハアラズ早ク茲ニ配意スル所ハ能ク  
之ヲ救フコトヲ得ヘシ預防法左ノ如シ

第一其前徴ヲ見バ早ク平臥セシメテ體軀精神  
共ニ靜息セシムルコトニ三日目前徴全ク退クニ至  
ルヘシ實ニ預防ノ第一術ナリ之ヲ守ラサレハ  
他技皆功ヲ成スコト能ハス

第二尺澤ヲ刺シテ血ヲ瀉スヘシ衰弱甚シクメ  
之ヲ忌ム者ハ甚タ罕ナリ乳房ニ八個至十二個蟬鍼ヲ貼ス

ヘシ乳房ハ子宮ノ變ヲ誘導スルコト最駿速ノ地  
ナレハナリ兼テ第百三十八方ノ散劑ヲ與ヘ末  
篤栗加利精ヲ温メテ腹部腰部ヲ洗フヲ宜シト  
ス若シ其人神經性ニメ痙攣疼痛甚シキ者ハ每  
半時菲阿斯越幾斯一ハヲ油製乳劑ニ和シ用ヒ  
菲阿斯油一匁阿芙蓉丁幾一錢薄荷油半匁ヲ塗  
擦シ腸胃汚物證ヲ夾ム者ハ緩柔ノ清涼下劑ヲ  
服セシムヘシ

第三流産ノ素質ヲ抱ク者アリ乃チ妊スル毎ニ  
同時期ニ當テハ流産スル是ナリ此證ハ平素

ノ時ニ於テ「ビ」モンテ此鑛ノ如キ鐵泉ニ浴シ  
且之ヲ内服シ或ハ他ノ鐵劑ヲ用フルヨリ大功  
アリシ者未曾テ之ヲ見ス而妊娠ノ際ニ臨テハ  
初三四月間平卧メ大ニ靜息セシメ輕キ防燠ノ  
攝生ヲ命シ灌腸ヲ行フテ便秘ヲ防キ多血家ハ  
尺澤ニ刺絡ヲ行ヒ末篤栗加利精ヲ以テ毎日腹  
部腰部ヲ洗滌スルヲ佳トス亞鉛モ亦預防ノ卓  
功アリト云ヒ亦收斂亞的兒一錢龍涎香越仙扶  
亜ニ錢合和メ日ニ三次三十滴宛冷水一碗ニ和  
シ服セシムルモ大ニ奇功アリト云ヘリ

子癩 ストイペン、デル  
ズワングレニ蘭

妊ノ季期ニ當リ或ハ分娩ノ陣痛ニ副テ發スル  
所ノ痙攣證ナリ人事ヲ省セス昏睡ヲ兼子終ニ  
轉メ真ノ卒中ニ陷ルヲ常トス

原由 腦ノ血液鬱積全軀ノ多血刺絡ノ懈怠等素  
因トナリ軀體ノ劇動情意ノ感激分娩ノ艱難或  
ハ胎兒ノ位置錯戾等誘因トナル

治法 捷手ニ刺絡ヲ行ヒ蟬蟻ヲ貼シ下劑ヲ用ヒ  
頭部ノ冷漏四肢ノ芥子泥等ヲ施シテ速ニ頭腦

ノ血液ヲ誘道ニシテ要ス適宜ノ瀉血ヲ行テ  
後脈亦穩靜トナレ氏諸證依然タル者ハ阿芙蓉  
ニ甘汞ヲ配シ用ヒ温浴ヲ行フヲ良トス其分娩  
ノ期ニ臨テ起レル者ハ形器性ノ支障有テ之ヲ  
妨ルニハ非ルカ産科家ニ命メ之ヲ檢シ之ヲ除  
カシムヘシ若シ急ニ迫ルニ臨テハ手術ヲ以テ  
分娩セシメスンハアラス

分娩「バリー」

婦人ノ婦人タル所以ノ機關皆此一作用ヲ以テ

目的トセリ故ニ分娩ハ其諸機ノ收功時ナル者  
ナリ而是帝ニ一個ノ新活物ヲ世ニ生出スルノ  
ミナラス婦體上ニ於ケルノ大吉キリシス利濟ナリトス  
一身ヲ平均スルノ大機動有テ分泌排泄ヲ兼ル  
等實ニ吉利濟ノ景况ヲ具フルヲ著ルシ故ニ此  
機愈十全無恙ナレハ其婦ノ更ニ健康ヲ得ル  
亦愈十全ナリ

分娩ハ有機體上ニ於ケル至妙ノ機關ニメ其經  
過轉變實ニ不測ニ出ル者ナリ其自體ヲ保續シ  
虧損ヲ補給スルノ神力昭々乎トメ看ルヘク非

先代遺訓 卷之四 三

常ノ變革ト最儉ノ危殆ヲ兼攝セル大機動ナル  
ニ億兆ノ庶民、六抵皆後害ヲ遺サスメ繼テ直チ  
ニ十全ノ健康ニ復スル所以ン誰カ其妙機ヲ驚  
歎セサルヘケンヤ  
蓋シ醫ノ務トスル所ハ其前後ニ發スル所ノ病  
患ヲ檢査シ自然良能ノ之カ扶ケヲ為ス所如何  
ヲ注視シ以テ其常ニ違フ所アレハ之ニ準テ恢  
復ヲ營ムニ在ルノミ

産婦本然ノ内情左件ニアリ第一少腹多血從前  
胎兒ニ送輸セル饒多ノ血液之ヲ費ス者既ニ去

テ其壓迫俄ニ歇リ故ニ其進ミ來ルヲ愈増多ス  
第二資生力及養液過剩其力ヲ用フルノ地頓ニ  
奪ハレテ其液ヲ費ヤスノ器ナシ故ニ自ラ過剩  
ス第三血行變動上ニ向テ還流スルノ血行自ラ  
變動セサルヲ得ス第四腸胃汚物子宮ニ壓迫  
セラレテ鬱塞セル所ノ汚物令卒カニ疎解メ害  
ヲ致サントス第五毀傷刺衝及局處衰弱産後ノ  
子宮ハ毀傷メ出血シ刺衝ヲ致スヲ創傷ニ異ナ  
ラス故ニ産婦ハ創傷ノ患者ノ如ク之ヲ處置ス  
ヘシトセリ其本然嫩衝ノ素質ヲ有メ沕乙ノ滲

漏ヲ兼子易久。動モスレハ虚性ノ病毒轉徙ニ移  
リ易シ

體內右ノ如ク危殆ノ變ヲ具セリト雖氏億兆ノ  
婦女ヲメ容易ニ之ヲ免レシメテ速ニ健康ニ復  
セシムルノ妙機二個ノ吉利濟ニアリ惡露排泄  
ト乳汁分泌ト是ナリ此兩者能ク血液ノ過剩ヲ  
減却シ資生ノ餘カフ誘導シ全軀ノ運營ヲ平均  
シテ諸般ノ患害ヲ除祛ス

治法 娩産ハ病ニ非サル當然ノ常機ニメ自然ノ  
良能ニ奇異ノ妙作用ヲ具ヘタル者ナリ故ニ醫

之ヲ胸懐ニ介<sup>サン</sup>テ悉ク良能ニ信任セン<sup>ト</sup>ヲ要  
ス其技倆唯惡露乳汁ノ分利ヲ妨ケス冒寒過餐。  
情意感動等ノ有害ノ事件ヲ避ケシムルニ在ル  
ノ<sup>ニ</sup>然メ普通ノ治則左件ニアリトス

第一 娩後六週間ハ蓐ニ就テ静息セシムヘシ此  
時日ヲ經サレハ全軀ノ運營。子宮ノ機關。従前ノ  
常態ニ復スル<sup>ト</sup>ヲ得ス

第二 娩後十二時ハ殊ニ注意メ看護スヘシ識テ  
スメ睡中ニ脱血スル等ノ<sup>ト</sup>アリ

第三 第十四日ニ至ルノ間ハ蓐熱ヲ發スルノ恐

レアリ殊ニ慎重メ日ヲ消ラシテ要ス宜ク平  
卧メ冒寒ヲ防キ攝養ヲ慎ミ情意ノ感動ヲ避ク  
ヘシ平卧ハ亦脱血。子宮脱等ヲ預防スルニ肝要  
ナリトス

第四此期

按ニ十日間

ノ攝養治法共ニ防炊ヲ主トス

ヘシ食料ニハ大麥燕麥ノ粘煮汁及蒸餅煮汁ヲ  
宜シトス虚弱家ハ差早ク稀キ肉羹汁ヲ許シテ  
可ナリト雖<sub>レ</sub>乳熱ヲ發スルノ期<sub>初</sub>七日間ハ仍<sub>ホ</sub>之ヲ  
禁スヘシ

第五室内ノ温暖ヲ適宜ニシ蓐中ヲ過度ニ熱セ

シメス勉メテ清潔ニ保持セシムヘシ

第六凡テ産婦ハ腸胃ヲ清刷セシムテ要ス蓐熱

ヲ防クノ要件ナリ然レ<sub>レ</sub>初頃ハ強下劑ヲ用フ  
ル<sub>ト</sub>勿レ乳汁分泌ヲ妨クルノ恐レアリ故ニ初  
ハ唯第一方ノ如キ輕キ藥ヲ與ヘテ每晚灌腸法  
ヲ行ヒ第四五日ノ後一二日清涼下劑ヲ連用ス  
ルニ宜シ殊ニ蓖麻油或ハ第六方ヲ取テ一匙宛  
服セシムルヲ佳トス

第七娩後六時ヲ歷ハ乃チ授乳セシメ母氏之ヲ

嫌フ<sub>ト</sub>アリ<sub>レ</sub>必ス十四日間勉メテ持久セシム

ヘシ蓐熱ヲ預方シ乳汁鬱滯ヲ疎散スルノ緊要  
事ナリ

第八惡露ハ局處多血ヲ咸却スルノ大吉利濟ナ  
リ停滯ナカラシメン<sub>ト</sub>ヲ要ス加密列泡劑ヲ取  
テ時々一椀ヲ服セシムヘシ有功ノ最良藥ナリ  
此藥ハ亦能ク後陣痛ヲ緩解スルノ功アリ

第九後陣痛劇甚ナル者ニハ油製乳劑ヲ必功ノ  
良藥ナリトス菲阿斯越幾斯一二ハヲ加フレハ  
愈佳ナリ第百四十  
ニ甲方或ハ此ニ阿芙蓉ヲ稱用スル  
者アレ氏大便ノ秘閉殊ニ害  
アリヲ起シ焮衝ノ素質

ヲ増スノ危害アリ慎戒セサルヘカラス

蓐熱ユブリスピュエルヘラリス  
ライーゴフロール  
コールツ  
カ  
蘭

徵候 産蓐ニ得ル所ノ各種ノ熱病焮衝皆之ヲ蓐  
熱ト稱スルニ非ス所謂蓐熱ハ自家ノ本徵有テ  
固有ノ本性ヲ具ヘタル一異別種ノ熱病ナリ乃  
チ小腹劇痛ノ著シク腫脹シ速ニ進テ鼓脹状ノ  
緊滿ヲ致シ其部ノ感覺銳敏ト為テ毫モ觸ル  
コトヲ得セシメス被衾モ亦覆フコト能ハス脈動初  
ヨリ急數ニメ夫渴引飲シ疲勞已甚シク神志沈



重シテ乳汁惡露共ニ抑遏シ通列泄瀉ノ窘迫シ  
或ハ嘔吐ヲ兼ル<sub>1</sub>ア<sub>1</sub>者是ナリ  
其經過極メテ迅速ナリ三四日ニメ斃ル<sub>1</sub>者少ナ  
カラス偶十全ノ回復ヲ得ル者アレ<sub>1</sub>氏粟疹腦病  
乳瘍腹水等ノ病毒轉徙ニ終ル<sub>1</sub>ヲ多シトス  
其屍ヲ解テ之ヲ觀ルニ腹膜子宮腸等焮衝ノ壞  
疽ニ轉シ凝固性ノ液或ハ乳汁様ノ液ヲ滲漏セ  
ル<sub>1</sub>非常ニ多量ナリ  
此病ハ一般ニ流行スル<sub>1</sub>有テ許多ノ産婦雜居  
セル家ニハ亦能ク相傳染スル<sub>1</sub>アリ而其流行

夥シキ歳ト否ラサル歳トアリ其獨リ産婦ヲ侵  
シテ他人ヲ襲ハサルヲ以テ之ヲ觀ルニ娩産前  
後ニ於ケル婦體ノ變動ニ其原ヲ資レル者タル  
ヲ明カナリ

原由 近因ハ子宮腹膜或ハ腸ノ焮衝セル者ニ  
或ハ其諸器一齊ニ速ニ多量ノ液ヲ滲漏ス其  
焮衝セル<sub>1</sub>アリ  
焮衝ノ景況全ク他ニ異ナルト産婦ノミ之ヲ患  
フルト娩後十四日ノ際ニ限レルト是分娩ノ前  
後ニ得タル體内ノ變常之カ素因ト為ル<sub>1</sub>ヲ徵  
ス蓋シ妊ノ末期ニ臨テハ擴張セル子宮腹部ノ

諸器諸系ヲ厭迫シ以テ之カ衰弱ヲ媒起シ之カ  
運營ヲ支障シ兼ルニ血液製造饒多トナレリ之  
ヨリノ胃腸血脈乳糜脈等腹内諸系ノ運營怠慢  
シ膽液汚物腸胃ニ鬱滯シ硬尿結腸ニ堆積シ血  
液列印波腹内ニ充盈ス是ノ如キ素因アルニ當  
テ夫創傷ニ等シキ分娩ノ劇衝起リ子宮及ヒ其  
他ノ諸器焮衝状ヲ致スト雖其生機順正ナル  
者ニ於テハ乳汁惡露ノ分利排泄ニ由テ之ヲ誘  
導シ隨テ全軀平均ヲ得ルカ故ニ其害ヲ見ル  
ナシ若シ是時ニ當テ乳汁鬱滯シ惡露閉塞シ寒

冷ニ胃觸シ起熱ノ食品ヲ喫シ温覆度ヲ過シ胃  
中飽滿シ情意ノ感動ヲ得或ハ難産ニ罹ル等ノ  
誘因加ハルトアレハ乃チ其焮衝状ナリシ者進  
テ真ノ焮衝ニ轉シ以テ此病トナル故ニ其尋常  
ノ焮衝ニ異ナル所以ン左件ニアリ衰弱已甚ノ  
部ニ發セル弱性ノ焮衝打後ノ焮衝ノ如シニメ速ニ神  
經證ニ轉シ壞疽ニ陥ルノ性ヲ具セル一ナリ腹  
内諸器ニ體液ノ鬱積セルカ故ニ洩乙滲漏ヲ兼  
ルト太甚シキニナリ腸胃汚物ノ鬱積頗ル多キ  
三ナリ之ヲ發熱ノ本性トス

治法 本治法 預防法トアリ就中預防法ヲ以テ  
 主トスヘシ乃チ産前ニ在テハ妊ノ季期毎日動  
 作ヲ怠ラシメヌ毎日上圍ヲ缺カシメヌ瀉利煉膏  
食匙宛用フル 其人少壯ニメ多血ノ候アル者ハ  
 分婉ノ少前刺絡ヲ行フヘク産後ニ在テハ毎日  
 赤兒ヲ抱テ授乳セシメ母氏之ヲ欲セサル者モ  
 初一週間ハ必ス強テ之ヲ命シ第九日ニ至ル間  
 ハ勉メテ静卧セシメ第十四日マテハ室中ニ日  
 ヲ消オホラシメ防焮ノ植物品ヲ食料トシ冒寒起熱  
 ノ諸件ヲ避ケシメ其授乳スル者ニハ枸橼酸剥

篤亞斯 按第 一 方 如キ緩性ノ清涼下劑ヲ與ヘ其自  
 ラ授乳セサル者ニハ少強キ下劑孕禁酒石ヲ佳  
方ニ ヲ投シ以テ溘便ヲ得ル一日ニ兩三行ナラ  
 シムヘシ  
 本治法 腹痛發熱等ノ初起徵候アル者ニハ清  
 涼下劑ヲ與ヘテ灌腸法ヲ行ヒ屢赤兒ニ吮ハシ  
 メテ乳汁ノ分泌ヲ保持シ且増進セシメ乳汁鬱  
 閉セル者ハ之ニ兼テ乾角法緩和蒸漏法ヲ乳房  
 ニ行ヒ惡露抑遏セル者ハ蓬砂ヲ用ヒ臈内ニ緩  
 和ノ注射法ヲ施シ効ナキ者ハ陰部ニ蟻蟻ノ貼

夫大... 三九... 通...

シ腸胃汚物上向ノ徴アル者ハ土根  
用ヒ病勢進テ焮衝證増劇セル者ハ刺絡ヲ行ヒ  
疼痛仍<sup>ホ</sup>陸續スル者ハ蟻鍼ヲ腹部ニ貼スヘシ法  
ハ個乃至十二個ヲ行  
フテ殊ニ優レリトス内服ニハ油製乳劑ニ老里  
兒結爾斯水ヲ加ヘ與ヘ清凉下劑及ヒ甘汞ヲ兼  
用シ羯布羅油。水銀軟膏ニ阿芙蓉ヲ加ヘテ塗擦  
シ緩和鎮痛ノ琶布ヲ外用スル等總テ腸焮衝ノ  
治法ヲ襲用スルニ宜シ此病ハ速ニ神經證腐敗  
證ニ陷ルノ恐レアリ断エス此ニ配意ノ其神經  
證ニ轉セル者ハ纈草。麝香。阿芙蓉等ヲ與ヘ腐敗

證ニ傾ケル者ハ幾那羯布羅。亞兒尼加ヲ處スヘ  
シ殊ニ注意スヘキハ子宮壞疽ナリ惡露ニ腐敗  
ノ候ヲ現ハス者是ナリ亞兒尼加。幾那ノ注射法  
ヲ主藥トス若夫乳汁轉徙外部ニ來リ復スルノ  
徴アラハ勉テ之ヲ催進センコトヲ要ス

母乳處置 <sup>「</sup>バハンデリング、ベイ、ヘット、ソー  
ゲン、エンニート、ワーゲン、蘭

乳汁分泌ハ緊要ノ機能ナリ宜ク左ノ通則ニ準  
フテ之ヲ處置スヘシ

第一妊中ヨリ預メ乳頭ヲ授乳ニ適女ニ形

夫々遺用 卷之二十四 通商醫局

ヲ得セシムヘシ内豆冠ヲ刺サ或  
トルカラグチケハル名脂ヲ以テ小帽子ヲ造リ  
之ヲ乳頭ニ被ラシムルヲ佳トス季期ニ臨テハ  
毎日佛郎斯燒酒ヲ以テ乳頭ヲ洗フヘシ能ク剥  
爛ヲ預防ス若其乳頭引縮セル一甚シキ者ハ吸  
漣管ヲ以テ吸テ延長セシムルヲ宜シトス  
第二 娩後六時ヲ經ハ乃授乳セシムヘシ乳汁  
分泌ヲ促役シ其轉徙ヲ預防シ且乳房ノ未硬強  
過大ト為ラサルニ先テ兒ヲメ吸乳ヲ習ハシム  
ルノ利アリ假令母氏自ラ授乳スル一ヲ欲セス

氏強テ之ヲ勸諭シ初十四日間ハ必ス怠ル一勿  
ラシムヘシ母ノ為ニハ乳汁壅滯ノ患害ナク兒  
ノ為ニハ其食養初乳ニ若ク者ナシ故ニ兩全ノ  
鴻益アリトス

第三 授乳スル者ト否ラサル者ト其處置全ク及  
ス乃授乳スル者ニ於テハ數兒ヲメ之ヲ吸ハシ  
メ產蓐ヲ離ル一後モ仍苗香泡劑葉根子共ヲ多  
服セシメ麥酒及ヒ羹汁ヲ飲用セシメテ其分泌  
ヲ進メ湧出ヲ増一ヲ務ムヘク且定期ニ先一テ  
稍滋味ヲ許スモ可サ一トス若夫授乳者ハ能

夫授乳者ハ能

夫授乳者ハ能

ハサル者或ハ之ヲ肯シセサル者ニ於テハ其公  
泌ヲ減却シ其鬱積ヲ疎散シ外泄誘導メ之ヲ退  
クルノ策ヲ處セシトヲ要ス即チ沙糖或ハ琥珀  
ヲ薰シタル木綿ヲ以テ緩ニ乳房ヲ包縛シ其鬱  
積セル者ハ吮テ之ヲ外泄シ澹泊ノ食料ヲ喫セ  
シメ下劑ヲ服セシメ殊ニ發汗ヲ促カサシムル  
ヲ良トス乳汁ヲ減退スルニ特効アル者ハ孕禁  
酒石ナリ日ニ一二錢宛與ヘテ二三回ノ上圍ヲ  
得ルニ宜シ

第四 乳房若シ腫脹ノ疼痛シ硬結スル者ハ緩和

ノ蒸漏法ヲ施シテ乳汁ヲ融解シ私百爾麻攝的  
ヲ扁桃油ニ和メ外貼シ屢吸テ之ヲ外泄シ温ニ  
保持ノ嚴ニ飲食ヲ節セシムヘシ  
乳頭剥爛ハ痛苦甚シキ者ナリ佛郎斯燒酒葛加  
阿酪石灰軟膏<sup>第四百三十三方</sup>等ヲ外敷シ葛加阿酪ニ亞  
鉛華ヲ和メ塗擦シ亞刺比亞護謨<sup>一</sup>「カツシア」花<sup>一</sup>  
ノ散末ヲ摻スル等ヲ宜シトス

乳汁過溢<sup>ガラクトル</sup>

既ニ授乳ヲ止ムルニ及テ其分泌ヲ持續シ或ハ

過度ニ湧出ル者是ナリ唯其人ヲ養ハスル  
ナラス終ニ大衰弱ヲ起シテ虚勞ニ陥ラシムル  
トアリ原由ハ授乳ノ久シキニ過ルカ月経ノ再  
ヒ来ラサルニアリ治法ハ月経ヲ催起シ羯布羅  
類ノ香竈藥ヲ乳房腋下ニ外貼スルニ宜シ胡羅  
蔔葉ヲ腋下ニ挾ムモ亦奇功アリ

産後白腫

フレグマシアアルバドレーン  
スピエルペラリス  
ウーロングデルカラ  
ムフロウエン  
蘭

徵候 股ニ生スル白色ノ腫起ナリ其發スルト急

速ニメ増大スルト著シク疼痛劇烈ニメ全軀發  
熱シ其腫陰部及ヒ孟骨ノ全廓ニ逮フ者アリ其  
發スル産後十四日以内ニ在テ其經過八日ヨリ  
十四日ニ至リ速ク救療セサレハ壞疽ニ陥リ或  
ハ乳瘍ヲ發メ乃チ斃ル

此病ハ蓐熱ト全ク其内景ラ一ニス乃是分娩前  
子宮ノ壓迫ニ由テ股及ヒ孟骨邊ノ血脈水脈焮衝  
状ヲ致セルニ因ス故ニ白腫ハ腹膜外ノ蓐熱ト  
シ蓐熱ハ腹膜内ノ白腫トス其誘因モ亦蓐熱ト  
同一ナリ乳汁惡露ノ抑遏胃寒起熱ノ諸件情意

ノ感動。腸胃汚物等之ヲ誘起シ其死スル者多ク  
ハ焮衝ノ腹内ニ蔓延スルニ由ルナリ

治法 勉メテ早ク焮衝ヲ退治スルト吸收ヲ催進

スルトニアリ先ツ股及ヒ鼠蹊ニ蟬鍼ヲ貼シ水

銀軟膏ヲ擦シ次テ芫菁硬膏ヲ股ニ貼メ釀膿ス

ルニ至ラシメ内服ニハ清涼下劑孕禁酒石甘黍  
實芫荽答里斯

ヲ與ヘ驅散分消ノ乾熨法ヲ行ヒ疼痛劇シキ者

ハ菲阿斯葉煎ニ羅獨窠篤兒ト少許ヲ加ヘテ蒸濕

スヘシ頑固證ハ吐劑モ亦良藥タルヲアリ一二

日連用スルニ宜シ

白帶下「ブリ」オル、アルビュス、  
「ク」ツテフル、ド「蘭」

徵候 粘液ヲ腔ヨリ漏泄スル者是ナリ白色黄色

或ハ綠色ニメ其質膿様ナルアリ稀薄ニメ水ノ

如キアリ濃厚ニメ傑列乙ノ如キアリ其性緩柔

ナルアリ酷烈ニメ其部ヲ爛傷スルアリ而常住

連綿スル者ト唯月經ノ前後ニ起ル者トアリ

病經久セル者劇甚ナル者液質酷厲ナル者ハ漸

ク全軀ニ浸淫メ就中萎黃病歇以私的里消食不

良等ノ諸患ヲ將來シ終ニ勞熱ヲ發シ虚勞ニ陷



ル者少カラス故ニ是等ノ病患ヲ見ル片ハ毎  
此病ノ隱ニ其因ヲ為スニ非サルカ能ク著目セ  
スンハアラス殊ニ注意スヘキハ子宮ノ癌腫十  
リ能ク此病ノ因ト為リ亦能ク此病ヨリ生ス故  
ニ仔細ニ検査メ鑒定セントヲ要ス乃チ孟骨ヲ  
貫透メ疼痛刺スカ如ク射ルカ如ク或ハ鑽スル  
カ如ク其液惡色惡臭ヲ帶ヒ若クハ血ヲ交フルヲ  
之カ徴トス若夫徵毒ニ原ケル者ハ徵毒條ヲ參  
考スヘシ

蓋シ此病モ亦經久難治ノ一病ナリ而月經初見

ノ前候トナリ或ハ經血閉止ノ繼證トナリテ發  
セル者ハ最モ輕易ナリ月經通泄スレハ乃チ治  
スルヲ常トス然レモ其因遺傳ニ在ル者器質ノ  
變常ニ出ル者改革ス可ラサルノ職業ニ係レル  
者及ヒ月經毎ニ無發スル者ノ如キハ甚タ治シ  
難シトス

原由 近因ハ局處ノ刺衝或ハ局處ノ衰弱ナル  
猶他ノ脫液病ノ如シ多クハ此兩因相合併セリ遠  
因ハ食物富饒ニメ常坐ヲ事トシ温茶。脂油。粘乳  
類ヲ過喫スルニ在ルヲ最多シトス故ニ賤婦傭

人ニハ罕ニメ顯貴逸居ノ人ニ多シ其他住地家  
 室ノ卑濕治海ノ地ニ多キ所以ニ慢性ノ蒸氣抑遏被服輕薄ノ婦ニ多  
 以キ所或ハ房事過度。娩産過數。火桶上ニ坐卧スル  
 ノ惡習或ハ手淫ニ耽リ慾火煽動メ其情ヲ遂ル  
 下能ハサル等壯年ノ釐婦ニ多キ所以ニ或ハ徽毒傳染。聖京  
 偃。樓麻質。疥癬瘰癧等ノ病毒轉徙。痔疾變形。腫内粘液  
 痔經血抑遏。大便壅滯。内臓閉塞。蛔虫。蟯虫。子宮ノ  
 印華爾屈篤。剥列編。癌腫等皆能ク之ヲ誘起ス而  
 其素因ハ體質ノ縱弛ナルト洵乙ノ多量ナルト  
 血質ノ粘性ナルトニ在リトス

治法 膾及ヒ子宮ノ聖京偃ト看做シテ之ヲ療ス  
 ルヲ旨トスヘシ世間此病ヲ局處ノ所患トメ  
 注射藥等ノ局處法ノミヲ處スル者多シ謬誤甚  
 シト謂フヘシ醫者シ夫鼻感冒ヲ療スルニ唯冷  
 水。收瀋藥等ノ局處劑ノミヲ以テ其粘液流泄ヲ  
 抑遏セントスル者アラハ人其之ヲ何トカ謂ハ  
 其功績モ亦如何ソヤ先其原由ヲ除カズンハア  
 ラス乃衣服輕キニ過キ坐メ事ヲ操ル等ニ因セ  
 ル者ハ温服ヲ著セシメテ毎日運動セシムヘシ  
 唯之ニ由テ全治ヲ得ル者少カラスハ腸胃汚

夫... 道...

物如虫。内臟壅塞。或ハ瘰癧等ノ諸惡液病ヲ檢メ  
各之カ治法ヲ處シ或ハ有形無形ノ姪欲刺衝ヲ  
遠ケ全軀衰弱セル者ハ強壯治法ヲ行ヒ月經閉  
塞セル者ハ之ヲ催進スル等ヲ宜シトス就中少  
量ノ大黃盧會苦味越幾斯拔爾撒謨丸。朴屈福烏  
篤脂ニ甘汞金硫黃ヲ配スル等ノ如キ清血強壯  
ノ解凝藥ハ通メ偉効アリ用テ全功ヲ收ムル  
多シ

右ノ如ク原因ヲ攻治メ漏泄仍止サル者或ハ素  
ヨリ攻ムヘキノ原因ナクメ真ニ局處ノ衰弱ヨ



リ起レル者ハ局處治法ヲ處スヘシ然レ仍先ツ  
子宮ノ特効藥ヲ内服セシムルヲ佳トス特効藥  
トハ子宮ニ一種ノ交カヲ有メ專ラ其機能ノ變  
常ヲ治ムヘキ異効アルノ品ナリ即チ拔爾撒謨  
骨<sup>コソ</sup>拜<sup>ハ</sup>霍<sup>ハ</sup>三十滴宛日ニ三次薩<sup>サ</sup>毘<sup>ビ</sup>那<sup>ナ</sup>大<sup>オ</sup>黃<sup>ウ</sup>一ハ宛壯  
ハテ朝夕乳<sup>ニ</sup>香<sup>ニ</sup>明<sup>ニ</sup>礬<sup>ニ</sup>第百四藥<sup>サ</sup>那<sup>ナ</sup>刺<sup>チ</sup>答<sup>ダ</sup>尼<sup>ニ</sup>亞<sup>ア</sup>百<sup>ハ</sup>藥<sup>ニ</sup>煎<sup>ニ</sup>  
服用ス榆<sup>ニ</sup>皮<sup>ニ</sup>ラ<sup>ニ</sup>ミ<sup>ニ</sup>イ<sup>ニ</sup>ピ<sup>ニ</sup>ル<sup>ニ</sup>フ<sup>ニ</sup>葉<sup>ニ</sup>詳撒<sup>サ</sup>爾<sup>ニ</sup>末<sup>ニ</sup>兒<sup>ニ</sup>扶<sup>ニ</sup>斯<sup>ニ</sup>塩<sup>ニ</sup>酸<sup>ニ</sup>重<sup>ニ</sup>土<sup>ニ</sup>  
等<sup>ニ</sup>是<sup>ニ</sup>ナ<sup>ニ</sup>リ<sup>ニ</sup>ビ<sup>ニ</sup>ロ<sup>ニ</sup>モ<sup>ニ</sup>ン<sup>ニ</sup>テ<sup>ニ</sup>ル<sup>ニ</sup>ド<sup>ニ</sup>リ<sup>ニ</sup>ビ<sup>ニ</sup>ル<sup>ニ</sup>ゲ<sup>ニ</sup>ル<sup>ニ</sup>ス<sup>ニ</sup>パ<sup>ニ</sup>ー<sup>ニ</sup>ワ  
ト<sup>ニ</sup>ト<sup>ニ</sup>ル<sup>ニ</sup>等<sup>ニ</sup>ノ<sup>ニ</sup>鐵<sup>ニ</sup>泉<sup>ニ</sup>ヲ<sup>ニ</sup>毎<sup>ニ</sup>朝<sup>ニ</sup>一<sup>ニ</sup>盞<sup>ニ</sup>宛<sup>ニ</sup>久<sup>ニ</sup>シ<sup>ニ</sup>ク<sup>ニ</sup>連<sup>ニ</sup>用<sup>ニ</sup>ス<sup>ニ</sup>ル  
モ<sup>ニ</sup>亦<sup>ニ</sup>妙<sup>ニ</sup>功<sup>ニ</sup>アリ<sup>ニ</sup>而<sup>ニ</sup>兼<sup>ニ</sup>ル<sup>ニ</sup>ニ<sup>ニ</sup>冷<sup>ニ</sup>水<sup>ニ</sup>或<sup>ニ</sup>ハ<sup>ニ</sup>石<sup>ニ</sup>灰<sup>ニ</sup>水<sup>ニ</sup>ヲ<sup>ニ</sup>以<sup>ニ</sup>テ

夫<sup>ニ</sup>七<sup>ニ</sup>遺<sup>ニ</sup>水<sup>ニ</sup>ノ<sup>ニ</sup>卷<sup>ニ</sup>之<sup>ニ</sup>二<sup>ニ</sup>十<sup>ニ</sup>四<sup>ニ</sup> 四十七 道<sup>ニ</sup>道<sup>ニ</sup>齋<sup>ニ</sup>處<sup>ニ</sup>

患部ヲ洗滌シ或ハ微温浴ヲ行ヘハ大抵全治ヲ得ルナリ

諸法皆行テ驗ナキ者ハ是レ尙處衰弱ノ已甚ナルカ將、器質ノ變常ニ因セルナリ有力ノ尙處藥ヲ以テ注射法ヲ施スニ宜シ是亦弱ヨリ升テ漸ク強ニ至ルヘシ初メ先ッ石灰水。榆皮煎。或ハ失鳩荅煎ニ老利兒結爾斯水若ハ甘汞ヲ加ヘテ之ヲ行ヒ次ニ皓礬水。升汞水ヲ試ミ終ニ幾那。檳皮。明礬。撒爾末兒扶斯刺必斯印歇兒那栗斯等ヲ用ルラ良トス其他乳香。安息香。蘇合香等ノ拔爾撒謨藥

ヲ以テ薰シ或ハ檳皮撒爾末兒扶斯若ハゴロビエリナルチアリス附等ノ浴法ヲ行ヒ或ハ硫黃泉。鐵泉。海水等ニ浴セシムルモ亦佳ナリ

不孕スコテリリタス「オンプ」ロクトバルヘイド「蘭」

生殖機關ノ秘蘊未究識スルヲ能ハスト雖モ妊孕センニハ婦體生殖器ノ感應力補給カ妨ケナク健全ニメ能ク其度ニ佳適セスンハアラヌ故ニ婦人妊孕スルヲ能ハサルノ原由大率左件ニ歸ス即チ形器性支障。腔ノ癒合。臍胎。若ハ產性狹

窄等ノ如ク男精ノ路ヲ遮隔スル者は是ナリ月經  
不順月經闕如セル者ハ妊セス故ニ夫ノ半男女  
ハ經事ノ無キヲ以テ兒ヲ産セス經血過多ナル  
モ亦然リ新ニ受孕セル種子ヲ漂滌メ保持スル  
トヲ得ス乃チ識ラフメ四週毎ニ流産スル者多  
シ白帶下子宮壅塞印華爾屈篤寒粘液質感動遲  
鈍ニメ成形力弱ク體温乏シク血液稀クメ粘液  
質ナル者は是ナリ食養不給悲哀哭泣體温過度感  
動過敏瘕性稟賦瘕孿性ノ人ニ於テハ媾精ノ刺  
衝轉メ瘕孿ヲ起シ劇痛ヲ發スル者アリ是等ノ

婦ハ妊セサルヲ多シトス然レ其成形力旺ン  
ナル者ニ於テハ必シモ然ラス媾精佳境ニ至ラ  
ス或ハ却テ嫌忌ヲ起シ或ハ疼痛ヲ發スル等ノ  
事アルモ妊ニ妨ケナキ者亦之アリ多房娼婦ノ  
妊スルト罕ナル所以ニ此ニアリ其他硬結腫剝  
列編等ノ子宮器質病微毒瘰癧等ノ惡液病皆能  
ク妊ヲ妨クルナリ惡液病家ハ却テ非常ニ多ク  
妊娠スル者モ亦之ナキニア  
スラ  
是故ニ全然ノ不孕アリ一時ノ不孕アリ疾病ニ  
罹リ思慮ヲ勞シ艱苦ニ遇ヘル等ノ際ハ妊スル

ナシメ他時ニハ能ク妊シ違男ニ逢テハ石婦  
タリシ者那男ニ交テハ産母トナリ或ハ配匹  
ト雖氏其氣質ノ景況ニ由テ一時孕セサル  
リ喻ヘハ夫婦氣稟相戾リテ其始一兒モ得ル  
能ハサリシ者後漸ク和熟シ氣質互ニ類似スル  
ニ隨テ數兒ノ母ト為ル類或ハ婚後十年餘モ不  
孕ナリシ者後能ク數兒ヲ産セル例甚タ多シ或  
ハ羈旅ノ始メテ妊スルヲ得或ハ北地ノ人居  
ヲ南邦ニ移シテ後産セル類地方ニモ亦管スル  
アリ

治法 其因ノ男ニアルカ將婦ニアルカ之ヲ明断  
スルヲ甚タ難シト雖氏能ク検査メ鑒別セン  
ヲ要ス

其婦體ニ係レル者ハ先形器性支障。月經不順。白  
帶下。惡液病。器質變常等各其治法ヲ處シ虛性寒  
粘液質ノ者ハ强壮劑滋養劑衝動劑ヲ用ヒ神經  
性痙攣性ノ者ハ鎮痙劑ヲ與ヘ多血焮衝性ノ者  
ハ防焮ノ攝生ヲ命シ過度ノ媾接ヲ禁スル等凡  
テ遠因ノ治法ヲ行ヒ而後子宮上ニ掙扎スルノ  
治法ニ移テ生殖諸器ノ感應力補給カヲメ新體

ヲ生スルニ適スヘキ度ヲ得セシメ其田ヲ種  
クヘク實ルヘカラシメン<sub>ト</sub>ヲ要スヘシ其法先  
月經前或ハ月經ニ兼テ疼痛痙攣ヲ起シ經血ニ  
粘液ヲ混シ或ハ膜状塊状ノ物ヲ交ヘ且腹ノ下  
邊膨脹スル者ハ是子宮ニ印華爾屈篤等ノ壅塞  
アルナリ宜ク解凝劑ヲ用ヒテ之ヲ清刷スヘシ  
即チ苦味越幾斯瓦爾拔奴謨阿魏盧會曹達カル  
ニバツト殊<sub>ト</sub>或ハ甘汞ヲ與ヘ必設刺兒灌腸法及ヒ  
石鹼温浴硫黄温浴等ヲ行ヒ或ハ「エムスバツト」ウ  
ースバツト共ニ鑛泉等ニ浴セシムルヲ宜シトス而後

子宮ニ恰當ノ生殖機關ヲ挑起セシメスハア  
ラス其藥ハ鐵ト浴法トニ勝レル者ナシ殊ニ鑛  
泉浴ヲ良トス鐵ハ成形カヲ活起メ血質ノ凝力  
ヲ增益スルノ聖藥ナレハナリ鑛泉ノ優レテ奇  
驗アル者ハ「エムス」ヒロモント兩ナカラ鑛泉ナリ甲ハ  
體質脆弱ニシテ神經性ナル者及ヒ壅塞ヲ兼ル者  
ニ宜クヒハ衰弱甚シク感動遲鈍ナル者ニ的當  
ス  
媾接ノ時期亦大ニ妊孕ヲ扶クル<sub>ト</sub>アリ即チ月經  
後不日ノ頃朝晨等神志爽活ノ時ニ於テスル

佳トス子宮ノ位置宜キヲ得サル者ニ於テハ床  
上ノ卧状ニモ亦係ルヲアリト云フ

扶氏經驗遺訓卷之二十四終



